



2019 年度定時評議員会が無事終わりました

アトム共同保育園は、姉妹園のつばさ共同保育園とともに、社会福祉法人アトム共同福祉会という組織が、その運営母体です。社会福祉法人は、社会福祉法という法律に則ってその運営を行わなければならないのですが、その中でも、理事会、評議員会という会議の開催はとても重要なこととして義務づけられています。2017 年に社会福祉法が改正され、評議員会はその設置が「任意」から「義務」になりました。そして同時に法人の理念を理解した上で中立的な立場である評議員会が、社会福祉法人にとって一番大事な会議（最高決議機関 理事の選任 事業報告・決算の承認）に位置づけられたのです。アトム福祉会でもこの法改正にあわせて 2017 年度に評議員会を設置しました。

こんなふうにと書くと、とても堅苦しいイメージですが、アトムの園長 OB や、保護者 OB が中心のうちの評議委員会は、とても温かく和やかな会です。しかも、ただ和やかなだけでなく、それぞれが幼児教育や障がい児教育、地域子育て支援の現場で長年経験されてきた委員の皆さんのご意見やご指摘は、とても的確でそして熱い思いがこもっています。今年のはじめて会議に出席した新米園長の私は、丁寧に分厚い配布資料を読み込んでくださって、その上で次々と意見をくださる委員の皆さんに、「だいじょうぶ、側にいるよ。私たちも子どもたちのことを一緒に一生懸命考えているよ」と肩をたたいてもらったような気がして、とても頼もしくありがたくて、胸がいっぱいになりました。

今回、その感動を皆さんにも届けたくて、評議員の方々にご無理を言ってアトムっ子への原稿をお願いしました。アトムのことを私たち以外にも、こんなにも温かく真剣に考えてくれている人達がいる。アトム共同福祉会の大事な財産だなと感じています。※現在の評議員は 4 名ですが、来年度からは 9 名の評議員が必要になります。現役保護者の方にも、ぜひ、会議に参加してもらえたらと考えています。少しでも興味のある方は、野中まで

2019 年度保護者会総会が無事終わりました

アトム共同保育園の保護者会は、学校の PTA や幼稚園の保護者会とは少し違います。PTA が正式には（Parent-Teacher Association）といい保護者と職員による合同組織であるのに対し、アトムの保護者会はいくまでも園とは別組織。園と対等な立場で子どもたちの育ちの場を支えてくれている保護者の会です。保護者会には、これをしなければいけないという誰かに決められた決まりも、絶対にこれをして下さいという園の下請けのような仕事もありません。しかも、会長や副会長のようになわかりやすい役職もない。文字通り、誰が、どんなふうによっても（やらなくても）『自由』なのです。

この『自由』ということが、どんなに難しく、けれど、どんなに大切なことであるか。私はこの総会と総会を迎えるまでの道のりに寄り添いながら、改めて考え続けていました。（詳しくは保護者会の報告で）

「つながりあって子育てしましょう」アトムの保護者会からの真ん中のメッセージは、その設立当初からひとつです。でも、今のお母さんたちもつながることを望んでいるのか、園は保護者会を必要としているのか？「共同とは何か」迷いながら、苦悩しながら奮闘している保護者会中心スタッフの問いに、私はこの間、一度も明確な言葉で答えることができませんでした。

でも今は、保護者会総会の間ずっと思い出していたある言葉がその答えにつながっているように思っています。それは昨年参加させてもらったアトム café（保護者会、人材派遣部主催）で上の子が中学生になるひとりのお母さんがいった言葉です。「子育ては保育園で終わりじゃない。その先の子育ての方が、ほんとにいろいろある。親にも言えない、学校の先生にも近所の人にも打ち明けられないような子育てのピンチが絶対くる。本当に苦しかったそんなときに、私があの人たちに相談したいと思えたのは、やっぱりアトムで 6 年間一緒に過ごしたお母さん仲間やったねん」。

今年の総会には近年で一番多い 30 名近い参加がありました。真摯な意見や部への参加表明が書かれた委任状も何枚もありました。総会が終わったあとには、3 人だったスタッフ会に、新たに名を連ねてくれた仲間も増えたそうです。「保護者と職員が知恵と力を出し合って子どもたちの豊かな育ちを支える」。アトム共同保育園のこの理念を、「ほんとうのこと」にしていく毎日が、また、はじまります。